

第150回 愛知学院大学モーニングセミナー

「宮澤賢治物語」 ～今も宮澤文学が我々をひきつけるのは？～



名古屋短期大学
太田 昌孝



2018年9月11日

1. 自己紹介（賢治との出会いを含めて）

太田昌孝（おおたまさたか）・名古屋短期大学教授・博士（人間文化学）/国立長岡高専教授→名古屋短期大学教授（文学）・名古屋市立大学・名古屋学芸大学・桜花学園大学大学院非常勤講師・名古屋市立大学大学院人間文化研究科（日本文化学）博士後期課程修了。宮沢賢治学会会員・日本現代詩人会会員・西脇順三郎を偲ぶ会研究委員。宮沢賢治との出会いは小学校四年生。『やまなし』を読んだ時でした。趣味：《野球》（大学まで選手でした。）

A 教師としての賢治

賢治は盛岡高等農林学校専攻科（現、岩手大学大学院農学研究科修士課程）を修了した「インテリ先生」。赴任した花巻農学校（現、岩手県立花巻農業高校）では「理科」と「農業」を担当していました。当時は学歴で給料が決められていたので、賢治の給料は畠山校長の次に高く、「クラス遠足」を企画し、担任の生徒の運賃、弁当代などを賢治が一人で負担したこともありました。しかし、賢治は自分が農業の大切さを生徒に教えながら、農業の辛さを経験したことが無いという矛盾に気がつき、農学校の教師を辞職します。

B 科学者としての賢治

賢治は、盛岡高校農林学校で「農芸化学」と「土性学」を専攻し、主に花巻地方の土壌についての調査、研究をしました。その学問的成果には目をみはるものがあり、専攻科を終える時に、担当の教授から大学に残り、助教授になるように勧められたほどです。また、賢治は子供の頃から「石っこ賢さん」と呼ばれるほどの石収集家で、岩手山や早池峰山を登っては珍しい石を拾いました。更に賢治は当時、最先端の理論だった「遺伝子学」に興味を抱き、外国から雑誌を取り寄せてもいたようです。

C 宗教者としての賢治

宮沢家は古くから「浄土真宗」の家系で、賢治の父親の政次郎は「花巻仏教会」を組織し、中央から有名な僧を呼んで講習会を開くほどの篤信者でした。賢治も幼い頃から父の影響を受け浄土真宗の経文を暗記していました。しかし、18歳の賢治は大正3年、島地大等編『漢和対照妙法蓮華経』を読み、法華経に感動し、法華経を經典とする「国柱会」（田中智学主宰）に入会します。大正10年には花巻を飛び出し上京。国柱会の布教活動をしながら、東京・本郷の印刷所に勤め、多くの童話を書きました。

宮沢清六さん(実弟)の一言

「法華経研究」は確かに難しいがこれをやらない研究は駄目です。兄の文学を分かる為には法華経を研究して下さい。『宮沢賢治 まことの愛』（大橋富士子著）を是非、お読み下さい。」→「宮沢賢治研究Ⅰ・Ⅱ」（太田昌孝・静岡産業大学研究紀要）「宮沢賢治研究Ⅲ」（名古屋市立大学大学院人間文化研究科研究紀要）

D 文学者としての賢治

宮沢賢治がその生涯において最も力を注いだのが詩と童話の創作です。賢治は旧制盛岡中学校の頃から短歌を書き始めましたが、賢治のイマジネーションは短歌という枠の中にはおさまりきらず、詩と童話という自由なスタイルの文芸で十分に発揮されることになります。賢治は大正13年詩集『春と修羅』1000部を東京の関根書店から刊行しますが、世間で評判となることは有りませんでした。ところが一宮市萩原町出身の詩人、佐藤一英は賢治の詩を誰よりも早く評価し、なんとか賢治を東京の詩壇に紹介しようと苦心しました。また、賢治は同年、12月に東京の光原社から『注文の多い料理店』を出版しました。こちらは『春と修羅』に比べれば、多少話題になりましたが、それでも当時の童話作家には殆ど認められることはありませんでした。



花巻市豊沢町に宮沢賢治生家跡地がある。
当時の建物は残っておらず、今は生家を示す石塚があるのみ。



仙台にて陸軍大演習後（大正14年10月頃）
左 宮沢清六（賢治の弟） 右 宮沢賢治。

清六さんは賢治作品の保護・発表・校訂に
尽くされました。1987年筑摩書房から著書
『兄のトランク』を上梓。2001年6月
12日老衰で死去。享年97歳。賢治の4人
の弟妹の中では最後の生存者でもあった。
この写真は宮沢家よりお借りいたしました。

雨にも負けず

雨ニモマケズ

風ニモマケズ

雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ丈夫ナカラダヲモチ

慾ハナク決シテ瞞ラズ

イツモシツカニワラツテイル

一日ニ玄米四合ト味噌ト少シノ野菜ヲタベ

アラユルコトヲ

ジブンヲカンジョウニ入レズニヨクミキキシワカリ

ソシテワスレズ

野原ノ松ノ林ノ蔭ノ小サナ萱ブキノ小屋ニイテ

東ニ病氣ノコドモアレバ行ッテ看病シテヤリ

西ニツカレタ母アレバ行ッテソノ稲ノ束ヲ負ヒ

南ニ死ニサウナ人アレバ行ッテコハガラナクテモイ、トイヒ

北ニケンクウヤソショウガアレバツマラナイカラヤメロトイヒ

ヒドリノトキハナミダヲナガシ

サムサノナツハオロオロアルキ

ミンナニデクノボートヨバレ

ホメラレモセズ

クニモサレズ

サウイフモノニワタシハナリタイ

(昭和6年11月3日)



一九九六年(平成八年)、「宮沢賢治生誕百年」で賑わう。花巻市豊沢町に清六さんを尋ねた。イキリス海岸に陽炎が立つ八月の午後のことだった。

清六さんは数年来、自身の健康に配慮する意味から人と会つのを極力避けていたが、花巻桜地人館長、伊藤均氏の仲介で私の願いが実現したのである。宮沢家の居間に通された私に清六さんは穏やかに微笑



いつもでもお元気だった宮沢清六さん

「光」とすれば「影」とも言えるかもしれない。「羅須地人協会」設立に見られるように、自己の理想の実現のために、宮沢家の長男としての使命を放棄し、駆け抜けたの使に生を燃焼させ、向後百年にその輝きを期した賢治の人生はさまざまな苦痛を伴って来た。でも、やはり「光」の中

ルだけに奪られたものでは無い。なぜならは清六さんの生涯は、本来賢治が為すべき宮沢商店の相続という部分だけで終わらず、宮沢賢治という比類なき個性を世に送り出した。また、一世評家あるは伝承者として常にゴジティフ賢治を捉え続けたものであり、だからである。つまり、清六さんの抱った「影」は清六さん自身も輝いていた。恒星としての「影」であり、決して賢治という巨星に打ちひがれたものではなかった。

距離を置こうと努める、冷静で鋭敏な語り部としての姿を窺見したまじに思った。ちよつとそのころ、発見された新星が「ミヤザワケン」の命をされた。話かそのことに及ぶと清六さんは「自分が星になれたことを賢治は向よりも喜んでいました」と、虚空を見やるまじな深いまなざしで語った。

に見えた。しかし、話が花巻空襲のことと及ぶと、涙として背筋を伸ばし「高村先生と二人で、賢治の原稿を抱え、その庭の奥にあった防空壕に逃げ込んだんです。原稿だけは無事で」と語った。この戦いで宮沢家は焼失した。もし、二人が原稿を持ち出さなかつたら賢治の文学は後世に伝わることはなかった。掃り際、玄関で清六さんか

恒星としての宮沢清六

太田 昌孝

み、「宮沢家の父祖の地は岐阜の関です。あなのお住まいに近いのでは」と差し出した名刺を見ながら語り始めた。居間の奥の仏壇には賢治が拜んだ「界曼荼羅」が掛けてあり、そして、私の目の前には賢治の死後、六十余年にわたって家族の文学を護り

にあつた。それに比べ、清六さんの生涯は、大正十年の東京高等工業学校への進学断念とそれに伴う帰郷、昭和元年の宮沢商店開業など、賢治の人生のいわば「影」の部分に背負ったものでも多

方、賢治の人生を客観的に見つめ続けた。清六さんは私に賢治作品に登場する「風」の意味を説き、「法華経に触れない賢治研究は無意味だ」と断言した。そこに私は弟としての姿は全く賢治の文学に対して意図的

翌年、私は「高村光太郎と宮沢賢治」という新たなテーマを抱いて、再び清六さんを探った。前年の熱狂は既に失せ、花巻はいつもの静かな八月を迎えていた。清六さんは一年の間に随分と弱ったま

ら賢治の描いたイラストがプリントされたTシャツをお土産に頂いた。それが清六さんとの最後だった。「太田さん、銀河鉄道はやはり鉄道でなければ駄目なんです。私たちの行くべき道が賢治の目指した理想と一本のレールで永遠に繋がるために」。清六さんは今、無上道との辺りに居るのだ。六十八年ぶりの兄、賢治との再会はもう果たしたのだろうか。(静岡産業大学)

ん。生生涯は賢治のそれを思えば、ある意味で清六さん

しかし、清六さんの背負った「影」は決して負のベクト

賢治の人生と文学 見つめ続けた生涯



おた・まさたか
静岡大学大学院修了。国文学。詩集に「乾花の向性」。評論に「日本の詩誌」(共著)、「近代文学入門」(同)。日本詩人クラブ会員。日本現代詩研究者国際ネットワーク会員。宮沢賢治学会会員。

人生のページ

他者を生かし、自らも輝く

宮沢清六の生涯

太田 昌孝



「ああ、りんどうの花が咲いている。もうすっかり秋だねえ。」「銀河鉄道の夜」の中でカムパネルラが囁くこの言葉が好きだ。作品中では銀河を旅する親友ジョバンニに向けて発せられたこの言葉が、実は生前宮沢賢治(一八九六―一九三三)が実弟の清六さんに発した言葉を元にしていて

の宿願が叶い、「宮沢賢治生誕百年」で賑わう八月、宮沢家の居間で二時間程、清六さんとお話した。一兄の作品と法華経の関連を研究してみたい。この研究にこそ価値がありませう」という会話が特に印象に残っている。

おおた・まさたか 愛知県生まれ。詩人、名古屋短期大学教授。名古屋市立大大学院人間文化研究科博士後期課程修了。博士(人間文化学)。詩集に『乾花の向性』(土曜美術社)、著書に『詩人 西脇順三郎 その生涯と作品』(クロスカルチャー出版、共著)ほか。論文に「宮沢賢治と法華経Ⅰ～Ⅱ」「宮沢賢治と白鳥伝説」ほか。

兄・賢治を見守り、伝える

「ああ、りんどうの花が咲いている。もうすっかり秋だねえ。」「銀河鉄道の夜」の中でカムパネルラが囁くこの言葉が好きだ。作品中では銀河を旅する親友ジョバンニに向けて発せられたこの言葉が、実は生前宮沢賢治(一八九六―一九三三)が実弟の清六さんに発した言葉を元にしていて

の宿願が叶い、「宮沢賢治生誕百年」で賑わう八月、宮沢家の居間で二時間程、清六さんとお話した。一兄の作品と法華経の関連を研究してみたい。この研究にこそ価値がありませう」という会話が特に印象に残っている。

の宿願が叶い、「宮沢賢治生誕百年」で賑わう八月、宮沢家の居間で二時間程、清六さんとお話した。一兄の作品と法華経の関連を研究してみたい。この研究にこそ価値がありませう」という会話が特に印象に残っている。

の宿願が叶い、「宮沢賢治生誕百年」で賑わう八月、宮沢家の居間で二時間程、清六さんとお話した。一兄の作品と法華経の関連を研究してみたい。この研究にこそ価値がありませう」という会話が特に印象に残っている。

の宿願が叶い、「宮沢賢治生誕百年」で賑わう八月、宮沢家の居間で二時間程、清六さんとお話した。一兄の作品と法華経の関連を研究してみたい。この研究にこそ価値がありませう」という会話が特に印象に残っている。

宮沢清六さん(一九〇四―二〇〇一)は賢治の八歳下の末弟として生まれた。私は生前一度、花巻市豊沢町の宮沢家でお会いする機会を得た。「桜地人館」の伊藤均氏の仲介により長年

の宿願が叶い、「宮沢賢治生誕百年」で賑わう八月、宮沢家の居間で二時間程、清六さんとお話した。一兄の作品と法華経の関連を研究してみたい。この研究にこそ価値がありませう」という会話が特に印象に残っている。

の宿願が叶い、「宮沢賢治生誕百年」で賑わう八月、宮沢家の居間で二時間程、清六さんとお話した。一兄の作品と法華経の関連を研究してみたい。この研究にこそ価値がありませう」という会話が特に印象に残っている。

の宿願が叶い、「宮沢賢治生誕百年」で賑わう八月、宮沢家の居間で二時間程、清六さんとお話した。一兄の作品と法華経の関連を研究してみたい。この研究にこそ価値がありませう」という会話が特に印象に残っている。

の宿願が叶い、「宮沢賢治生誕百年」で賑わう八月、宮沢家の居間で二時間程、清六さんとお話した。一兄の作品と法華経の関連を研究してみたい。この研究にこそ価値がありませう」という会話が特に印象に残っている。

宮沢賢治略年譜

明治29年(1896年)0歳 8月27日、父政次郎、母イチの長男として岩手県稗貫郡里川口村川口町303番地（現花巻市豊沢町）に生まれる。当時家業は質・古着商。弟妹は、トシ、シゲ、清六、クニ。仏教篤信の家庭環境で育ち、幼い時より経文に親しむ。

明治36年(1903年)7歳 町立花巻川口尋常高等小学校に入学。

明治38年(1905年)9歳 小学校3年生。担任の八木英三先生から、五来素川翻案、エクトール・マロ原作「家なき子」や、「海に塩のあるわけ」などの童話や民話を読み聞かされる。

明治39年(1906年)10歳 小学校4年生。父の始めた「我信念講話」に参加。この頃、鉱物、植物、昆虫採集、標本作りに熱中。

明治40年(1907年)11歳 小学校5年生。担任はクリスチャンの照井真臣乳（まみち）。鉱物採集に熱中し、家人から「石っこ賢さん」と呼ばれる。

明治41年(1908年)12歳 小学校6年生。綴り方「遠方の友につかわす。」「皇太子殿下を拝す。」を書く。

明治42年(1909年)13歳 2月：綴り方「冬季休業の一日。」を書く。 3月：花巻尋常高等小学校卒業、成績優等で「高等小学読本」などを与えられる。 4月：県立盛岡中学校（現盛岡第一高等学校）入学。寄宿舎白彊寮に入る。鉱物採集に熱中。HELPのあだ名がつく。

明治43年(1910年)14歳 中学2年生。 6月：博物教師に引率されて岩手山に初めて登る。そのとき岩手山に魅せられ、後年たびたび登山するようになる。 9月：同室の親友藤原健次郎が病死する。

明治44年(1911年)15歳 中学3年生。哲学書を愛読。短歌の創作開始。教師への反抗的態度が見られる。 8月：盛岡市北山、願教寺の「仏教夏期講習会」にて島地大等の法話を初めて聞いたと思われる。

明治45年、大正元年(1912年)16歳 中学4年生。5月：仙台方面へ修学旅行。初めて海を見る。一人菖蒲田に行き、病気の伯母平賀ヤギを見舞う。この年、「歎異抄」を読み感動する。

大正2年(1913年)17歳 中学5年生。 3月：新舎監排訴の動きにより全員退寮させられ、賢治は盛岡市北山、清養院（曹洞宗）に下宿する。

大正3年(1914年)18歳 3月：盛岡中学校卒業。 4月：肥厚性鼻炎手術で岩手病院に入院。手術後発疹チフスの疑いのある高熱のため再入院。入院中、賢治は片思いの初恋をする。 5月末退院。島地大等編「漢和対照妙法蓮華経」に感銘。家業を手伝いながら高等農林学校受験準備。

大正4年(1915年)19歳 1月、盛岡市北山の教浄寺（時宗）に下宿。盛岡高等農林学校（現岩手大学農学部）農学科第二部に首席で入学。寄宿舎自啓寮に入る。土、日は登山、鉱物標本採集。

大正5年(1916年)20歳 盛岡高農2年生。 3月：修学旅行で東京、京都、奈良の農事試験場を見学。特待生に選ばれ授業料免除となる。 7月：関教授の下で盛岡地方の地質の調査。7月末：上京してドイツ語講習を受ける。 9月：関教授の下で秩父地方の土性地質調査見学に参加。

大正6年(1917年)21歳 1月：家の商用で上京。 3月：再び特待生となり、旗手を命ぜられる。『校友会会報』に筆名「銀縞」で短歌「雲ひくき峠等」を発表。 4月：盛岡中学に入学した弟清六と盛岡市内に下宿。7月：小菅健吉、保阪嘉内、河本義行と同人誌『アザリア』を創刊。短歌「みふゆのひのき」、短編「『旅人のはなし』から」などを発表。 9月16日：祖父喜助亡くなる。

大正7年(1918年)22歳 父と卒業後の進路について対立。 2月：『アザリア』に断章「復活の前」を発表。親友保阪嘉内が、退学処分となる。得業論文「腐植質中ノ無機成分ノ植物ニ対スル価値」提出。 3月：盛岡高等農林学校卒業。 4月より研究生となる。徴兵検査、第二種乙種、徴兵免除となる。 6月末：肋膜炎となり一カ月静養する。童話の制作を始める。『アザリア』に短編「峯や谷は」を発表。8月：童話「蜘蛛となめくじと狸」、「双子の星」を家族に読んで聞かせる。12月：妹トシ入院との報せで母と上京。翌年3月まで滞在。

大正8年(1919年)23歳 東京で人造宝石の製造販売の職業を計画するが、父の反対にあう。萩原朔太郎の詩集『月に吠える』に出会い感銘を受ける。 3月：退院したトシと共に帰郷。家事に従事。浮世絵版画の収集を始める。無署名「手紙」を配る。

大正9年(1920年)24歳 5月：盛岡高等農林学校研修生修了。関教授からの助教授推薦の話を辞退。短編「猫」「ラジュウムの雁」を書く。夏には短編「女」を書く。11月：国柱会信行部に入会。父にも改宗をせまる。

大正10年(1921年)25歳 1月：無断で上京。国柱会本部で高知尾智耀に会う。本郷菊坂町75稲垣方に下宿。文信社の校正、筆耕の仕事に就きながら街頭布教や奉仕活動をする。 4月：上京した父と関西旅行。 8月：トシの病気の報に帰郷。 9月：『愛国婦人』に童話「あまの川」を掲載。 12月：稗貫郡立稗貫農学校（のちの県立花巻農学校）教諭に就任。『愛国婦人』に童話「雪渡り」を発表。稿料5円を得る。「竜と詩人」、「かしはばやしの夜」、「鹿踊りのはじまり」、「どんぐりと山猫」、「月夜のでんしんばしら」、「注文の多い料理店」、「狼森と笹森、盗森」など多くの童話を創作。

大正11年(1922年)26歳 1月：心象スケッチ「屈折率」、「くらかけの雪」を書き、『春と修羅』制作開始。「水仙月の四日」創作。 5月：「小岩井農場」を書く。 8月：「イギリス海岸」を書く。 9月：生徒6名と岩手山登山。農学校の生徒「飢餓陣営」を上演。11月27日：妹トシ死去。「永訣の朝」、「松の針」、「無声慟哭」を書く。

大正12年(1923年)27歳 1月：上京し、弟清六に童話の原稿を出版社に持ち込ませるが断られる。4月から5月：『岩手毎日新聞』に詩「心象スケッチ外輪山」、童話「やまなし」、「氷河鼠の毛皮」、「シグナルとシグナレス」を発表。国柱会機関紙『天業民報』に詩「青い槍の葉」他を発表。この年、「土神と狐」（推定）を書く。



大正13年(1924年)28歳 2月：童話「風野又三郎」の原稿筆写を教え子に依頼。「空明と傷痕」を書くことにより詩集『春と修羅』第二集の作品が始まる。4月：心象スケッチ『春と修羅』(関根書店)を自費出版。5月：生徒と北海道修学旅行。7月：辻潤が『春と修羅』を賞賛。8月：農学校生徒と「飢餓陣営」、「植物医者」、「ポランの広場」、「種山ヶ原の夜」を上演、一般公開。12月：イーハトーヴ童話『注文の多い料理店』を刊行。「銀河鉄道の夜」初稿成立。

大正14年(1925年)29歳 1月：三陸旅行。2月から森佐一、7月から草野心平と交わり、森編集『貌』、草野編集『銅鑼』に詩を発表。8月：森佐一らと花城小学校で開かれた詩の展覧会に作品出品。11月：東北大学の早坂一郎博士をイギリス海岸に案内してバタグルミ化石を採集。12月：「冬(幻聴)」を発表。岩手日報に変名にて「法華堂建立勸進文」発表。

大正15年、昭和元年(1926年)30歳 1月から3月にかけて、尾形亀之助編集『月曜』に「オツベルと象」、「ざしき童子のはなし」、「寓話猫の事務所」を発表。3月末まで岩手国民高等学校で農民芸術論を講義。3月31日：花巻農学校を依願退職。4月1日より花巻町下根子桜で独居生活を開始。5月：開墾や音楽の練習、レコードコンサートを始める。この頃より町内や近郊に肥料設計事務所を設け、肥料相談や設計を始める。8月：土曜日に近所の子供に童話を読み聞かせる。妹クニらと八戸旅行。羅須地人協会を設立し、11月頃から定期的に集会をもつ。12月：チェロを持って上京。上野図書館やタイピスト学校で勉強。オルガン、チェロの練習、エスペラントを学習。29日、帰郷。

昭和2年(1927年)31歳 1月：『無名作家』四号に詩「陸中国挿秧之凶」を発表。羅須地人協会で講義。2月：『岩手日報』に羅須地人協会の記事が出て、社会主義運動との関係を疑われ、警察の事情聴取を受ける。9月：『銅鑼』に「イーハトーブの氷霧」を発表。12月：盛岡中学『校友会雑誌』に詩を発表。花巻温泉南斜花壇を作る。この頃までに肥料設計図二千枚を書く。



昭和3年(1928年)32歳 2月：『銅鑼』に「氷質の冗談」を発表。 3月：『聖燈』に「稲作挿話」（未定稿）を発表。稗貫郡石鳥谷で肥料相談に応じる。 6月：東京で浮世絵や演劇鑑賞。伊豆大島旅行、「三原三部」を書く。日照りで稲作指導に奔走。 12月：急性肺炎になる。

昭和4年(1929年)33歳 病臥続く。4月：東北砕石工場主の鈴木東蔵が来訪、以後交際が始まる。病床に中国の詩人で、陸軍士官学校生が訪問。高等数学を勉強。

昭和5年(1930年)34歳 病状やや回復し、園芸に熱中。 9月：陸中松川の東北砕石工場を訪問。10月：「まなづるとダリア」の校訂が終わる。 11月：『文芸プランニング』に詩「遠足許可」等四編を発表。

昭和6年(1931年)35歳 2月：東北砕石工場技師となり、宣伝販売を受け持つ。 7月：『児童文学』第1冊に童話「北守将軍と三人兄弟の医者」を発表。 8月頃：「風の又三郎」の執筆進む。9月：教え子の沢里武治に「風の又三郎」<どっどどどどう>の歌の作曲を依頼。20日、石灰宣伝で上京中に発熱、遺書を書く。28日、帰郷、自宅で病臥。 11月3日：手帳に「雨二モマケズ」を書き留める。

昭和7年(1932年)36歳 3月：『児童文学』第2冊に「グスコブドリの伝記」を発表。挿絵は棟方志功。 4月：仙台在住の民俗学者佐々木喜善が来訪。 8月：『女性岩手』創刊号に文語詩「民間薬」、「選挙」を発表。11月：『女性岩手』に「祭日」、「母」、『詩人時代』に「客を停める」を発表。

昭和8年(1933年)37歳 3月：『天才人』に童話「朝に就きての童話的構図」を発表。 4月：『現代日本詩集』に「郊外」、「県道」を発表。 7月：『女性岩手』に「花鳥凶譜七月」を発表。 8月：病状悪化にもかかわらず農民の肥料相談に応じる。 9月21日：法華経一千部を印刷して知人に配布するよう父に遺言して、午後1時30分死去。 9月23日：安浄寺（浄土真宗大谷派）で葬儀。法名「真金院三不日賢善男子」

昭和26年7月、身照寺に改宗。



宮沢賢治記念館特別展

童話「セロ弾きのゴーシュ」

会期：7月28日（土曜日）～10月14日（日曜日）

賢治童話の中でも様々な年代に幅広く親しまれている作品の一つです。賢治自身もチェロを弾いていました。この特別展では愛用品のチェロや直筆稿など、関連する資料の通じ、宮沢賢治と作品の魅力を感じていただければと思います



童話「雪渡り」

会期：10月20日(土)～平成31年3月31日(日)

童話「雪渡り」は雑誌「愛国婦人」(大正10年12月、大正11年1月)で発表されたもので、生前の賢治が唯一原稿料をもらった作品としても知られています。直筆草稿は残念ながら現存しませんが、雑誌掲載したものに賢治自身が加筆、訂正を行った「自筆手入れ稿」というものが残されており、その「手入れ」の様子から賢治の表現・発想力の豊かさを垣間見ることもできます。賢治が思い描いた冬のイーハトーブの世界観をお楽しみください。

直筆稿の公開は10月20日(土)～10月28日(日)まで

特別展
童話
セロ弾きの
ゴーシュ

平成30年
7月28日(土)～10月14日(日)

会場／宮沢賢治記念館特別展示室

宮沢賢治記念館
〒025-0011 岩手県花巻市矢沢1-1-36
TEL 0198-31-2319

